



神奈川の風



平成27年10月5日号

校長 吉江 明洋

< 10月8日は66回目の創立記念日です >

10月8日(木)は神奈川中学校の創立記念日。今年で創立66周年を迎えた本校の歴史を、あらためて振り返ってみたいと思います。

本校は、太平洋戦争が終戦して4年後、廃校となった西大口高等小学校跡地に、浦島丘中学校の分校として昭和24年(1949)10月8日に生徒640名、職員15名が分離して開校式が挙行されました。



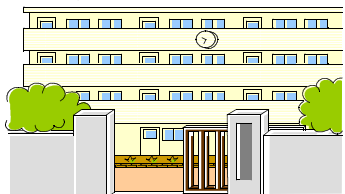
開校当初は「西大口中学校」の校名でしたが、西大口は狭い一地区の名称であり、保護者や市教育委員会からも校名変更の意見が出され、「神奈川区だけでなく神奈川県内においても名実共に代表の学校となるように」との願いを込めて、「神奈川中学校」と決定し、10月1日にさかのぼって校名変更されました。当時の市立中学校数は45校。ちなみに現在の市立中学校数は147校なので、横浜市内でも歴史のある中学校となっています。

神奈川中学校と改称されてすぐに、校章を制定するために、生徒・職員から案を募集し多数の応募作品の中から高橋善夫教諭のデザインを採用。また、学校カラーは校旗の地色として「えんじ色」に決定。昭和26年9月30日に2周年を記念して制定されました。

また、開校5年目の昭和29年3月11日に作詞：勝承夫さん、作曲：飯田信夫さんによる校歌が制定されました。

作詞の勝承夫さん(明治35年1月25日～昭和56年8月3日)は、東京都出身の詩人で、日本音楽著作権協会会長や母校の東洋大学理事長を歴任され、全国の小・中・高の校歌を数多く作詞された方です。昭和28年に発表された「駅伝を讃えて」の詩文は、箱根駅伝第60回を記念して、往路のゴール地点である芦ノ湖の湖畔に詩碑として刻まれています。

作曲の飯田信夫さん(明治36年5月25日～平成3年8月19日)は、大阪府出身で東京帝国大学工学部出身でありながら、戦前・戦後と東宝映画の映画音楽作曲家として活躍される一方、流行歌や数多くの社歌、全国各校の校歌作曲を手がけられた方です。



開校した昭和24年(1949)は、湯川秀樹博士が日本人初のノーベル物理学賞を受賞して戦後の混乱期の日本国内に希望を与えた年。大卒の初任給が4,220円。銭湯が大人10円、あんパン・鉛筆10円、コーヒー一杯20円、新発売のキャラメル一箱25円、映画80円、米一升200円の時代で、開校翌年に勃発した朝鮮戦争の特需景気が始まるまでは、日本経済は苦しい時代でした。

それから66年の歳月が流れ、卒業生も昨年度末で2万2千284名を数え、親子三代にわたって神奈川中学校の卒業生という家庭も多くなっています。

そんな多くの先輩方の深い思いを積み重ねてきた歴史ある本校の在校生として、「全員を仲間と認めること」「仲間と協力すること」「仲間を大切にすること」を基本として、さらに地域に愛される学校を創りあげていくことが私たちの責任であると思います。今後、80年、100年と、その思いが引き継がれていくよう全校生徒の力を結集して頑張りましょう。